

医療人教育のための実習・実験環境と医療機器

専門性の高い施設・設備が、医療人としての知識や技術の学修と実践を追求する、本学ならではの教育を支えています。それらは、講義で学修したことを学生自らが「実践して、修得する」ことを基本として設計されています。6つの学科・専攻を擁するキャンパスに、多くの学生が集い、互いに協力しながら、実習や実験を通して高い専門性や豊かな人間性を育んでいます。本学が拓く「医療への道」を支えている様々な医療機器を紹介します。

高度な知識や技術を修得 診療放射線学科 MRI装置

磁石と電波を使って体内を撮影する装置です。X線CT(コンピュータ断層撮影)と同様に、体の断面像を得ることができます。また、検査用の薬剤を用いることなく血管像を得ることができます。診療放射線学科では、放射線に関する基礎から高度な知識・技術を修得できるように配慮された講義・実習が行われています。



◇設置場所 1号棟・磁気共鳴画像実験室

最新の医療機器を使って体験学修 臨床工学科 手術室エリア

臨床工学実習室に設けられた手術室エリアです。麻酔器や電気メス、人工心肺装置など手術室で実際に使用されている様々な医療機器があります。講義で学修した内容を模擬体験し、実践的なスキルを修得します。医療機器を操作、保守点検するだけでなく、医療業界をリードする人材を育成しています。



◇設置場所 1号館・臨床工学実習室

シミュレータで実践的技術を習得 看護学科 SCENARIO(シナリオ)

多職種連携ハイブリッドシミュレータです。疾患や症状、年齢や性別、体温、酸素飽和度などを様々に設定して、そのシナリオに合わせ、脈を測ったり聴診器で心音を聴いたりするなどの看護技術を学びます。看護学科は知識や技術はもちろん、人間性や倫理観を高め、医療・保健分野に貢献できる人材を育成します。



◇設置場所 4号棟・成人高齢者看護学実習室

最新の検査機器を駆使 臨床検査学科 双眼光学顕微鏡

双眼光学顕微鏡は、人の目では見えないほど小さいサイズのものを見えるようにする装置です。臓器の構造や微生物、血液中の細胞などを観察します。臨床検査学科は、最新の検査機器を駆使して、診断や治療に必要な検査データを分析し、病気の予防や治療、早期発見に貢献できる人材を育成します。



◇設置場所 5号棟・形態検査実習室

大樹の礎

Nihon Institute of Medical Science News Letter

vol.33

2025.3.25

発行者：日本医療科学大学



人間力を磨く機会と場「道標の栞(しおり)」であれ

昨年夏、本学の新学歌ともいえるイメージソング『大空へ帆をあげて』（加賀爪忠勝作詞・作曲）が誕生しました。歌詞にうたわれる「長い旅路の物語をめくる 道標の栞」とは、本学の学びのあり方を表現しています。

医療人として歩む旅路に迷ったときには、大学時代の物語をめくってほしい。新藤博明学長と中谷儀一郎副学長が、これからの時代に医療現場で求められる人材や、本学の学びの力について、多くの卒業生が訪れてくれることなど、本学の特徴について語りました。



イメージソング動画

医療人としての人間力

学長 昨年夏、新学歌『大空に帆をあげて』をお披露目しました。「誰かの為、生きていこう 真っ直ぐな この道に 迷い無し」という歌詞が好きです。これからの時代、「この道」にはより人間力が問われます。国家試験合格を目指すのはもちろんですが、人生経験を積む様々な機会や面白いことを学生に提供したいと考えています。

副学長 冒頭の「ずっと忘れない ありがとう」が気に入っています。本学は「この道」を歩む卒業生の栞でありたいものです。卒業しても、本学はいつでも皆さんのよりどころであると新学歌で伝えたいです。

学長 高い専門性だけでは足りないと感じています。大切なのは、医療人としての人間力。学生には、医療全体に幅広く興味や関心を持ってほしい。大学の信頼や評価は、医療現場に立っている卒業生の活躍が下支えになります。学生には、人としての魅力を大学時代に磨いてほしい。本学は、そのための環境や機会を提供します。



新藤博明学長(左)と中谷儀一郎副学長(右)

副学長 学生は将来、医師やほかの専門職と共に働きますが、患者様から感謝され、選ばれる医療人であってほしいと思います。そのためには高い専門性に加えて、気遣いや気配りができる人間力が必要ですが、一朝一夕には身につけません。必要性を繰り返し教え、経験する機会を提供すること。本学は臨床経験が豊富な教員が充実しているので、説得力のある学びが特長です。

学びの力と大学の評価

学長 海外研修の成果でしょうか。卒業後、海外に活躍の場を求める学生がいます。また、パラリンピアンの特属トレーナーとして活躍する作業療法学専攻の卒業生もいます。自ら興味や関心の幅を広げ、望む分野へ挑戦して活躍していることを素直に喜びたいです。本学の「学びの力」と言えると思います。

副学長 卒業生が訪れてくれることがあります。医療人として立派に育った姿を見るのは本当にうれしいものです。

また、最前線に立つ彼らから教えられることも多く、教員冥利に尽きます。

本学は卒業生にとって港だと感じます。10年、20年と臨床経験を積んで、大学時代の価値にあらためて気づき、同窓会などで支えていただいています。

学長 卒業生が訪れてくれるのは、評価の一つだと思います。本学は担任制ですから、卒業後もつながり続けられるかどうかは、在学中の担任教員の魅力と深くかかわっており、ほかの大学と比較して、その力が強いと思っています。

来年度から、一人暮らしの学生支援をより充実させます。担任に加えて、支援スタッフを配置してしっかり支えます。

米国シアトル研修

他にはないプログラムに全員「満足」

昨年8月19日から6泊8日で、海外研修を実施しました。訪れたのは米国ワシントン州シアトルで、診療放射線学科、看護学科、臨床工学科、臨床検査学科の学生24人が参加しました。

研修のスタートは、ワシントン大学です。看護学部で医療用ムラージュ(化粧)を用いた最先端のシミュレーション教育を体験しました。

この研修の目玉の一つは、ボランティア活動です。今回は、貧困に陥りやすい移民の人たち向けのフードバンク活動に参加しました。そのほか、大学での講義や医療機関の視察、解剖実習など、この研修ならではのプログラムを体験しました。

研修後のアンケートでは、全員が「満足」と答えており、特に、解剖実習が印象に残ったようです。参加者からの感想では、「実際に体験すると、より一層理解できる。良い経験になった」「教科書との違いを確認できてとても興味深かった」「予習するためにも教科書などを持っていくと良い」など、多くの声が寄せられました。

また、参加者からは、「迷っているなら行く方が良いです。きっと一生モノの経験ができますよ」とメッセージもありました。



医療用ムラージュを用いた最先端の医療教育



バステリア大学での講義

地域医療視察研修

いわき市医療センターなどで学ぶ

昨年9月、福島県いわき市で1泊2日の地域医療視察研修を行いました。本学は同市と寄附講座を開設しています。視察研修はその一環で、参加した学生はいわき市医療センターと常磐病院を視察したほか、いわき震災伝承みらい館で東日本大震災の教訓を学習するなど様々な研修を行いました。

参加した学生からは、「働いている方の話を聞きリアルな医療現場を知ることができた」「臨床現場の雰囲気を肌で感じ、学習のモチベーションにつながる」「医療施設ごとの役割や連携について理解できた。東日本大震災についても学び、とても充実した研修でした」などの声が寄せられました。



いわき市医療センターの視察



臨床現場のリアルを実感



いわき震災伝承みらい館で学ぶ

高い合格率と磨かれた人間性 バランスのとれた医療人を育成する

本学は開学以来、高い水準の国家試験合格率を維持しています。また、医療現場の最前線に立つ卒業生の活躍は、高い評価をいただいています。

「国家試験合格は医療人のスタートライン。その先にある医療現場で問われるのは人間性です」と、中谷儀一郎副学長は語ります。新藤博明学長は、「高い合格率と磨かれた人間性。バランスのとれた医療人を育成することが、本学の使命です。臨床現場をよく知る教員と、家庭が両輪となって支えることで、学生の学力も人間性も高めることができます」と語ります。

教員の「教育力」が高い合格率を支える

ファカルティ・ディベロップメント(FD)は、教員が教育の内容・方法を改善し向上させるための組織的な取り組みです。本学ではFD委員会が中心になって積極的に取り組み、高い国家試験合格率を支えています。

FD活動の一環として、全教員を対象に研修会を実施しました。今回は「大人数講義法」をテーマに、東京大学の佐藤浩章教授に講演していただきました。参加者からは「自身の講義を見直す機会になった」「技法が具体的で、直ぐに取り入れることができる内容だった」などの感想が聞かれました。

本学では、学生もFD活動に参加しています。学生目線で授業や教育内容について考え、改善につなげます。学生FDは大学の未来をつくっているともいえます。



教育の質向上に努めています

合格祈願 出雲伊波比神社に教職員参拝

1月9日、国家試験を前に、教職員が毛呂山町にある出雲伊波比神社を参拝して、日々勉強に励む4年生の国家試験合格を祈願しました。

臨床検査学科は、学科が設置されて初めての国家試験受験です。遅くまでキャンパスに残って勉強している学生の姿を目にすることが増えました。教職員も一丸となってサポートをしています。



心から合格を祈ります

国家試験の激励会 1つ1つ着実に! それが合格への第一歩!!

2月、国家試験本番へ向けて各学科・専攻で激励会を開きました。新藤博明学長、中谷儀一郎副学長、伊藤芳保学部長が出席して、学生へエールを送りました。

学生は、学科・専攻ごとにスローガンを掲げて国家試験へ挑みます。学科が設置されて初めての国家試験となる臨床検査学科は、スローガンに「1つ1つ着実に!それが合格への第一歩!!」と掲げました。大学からは桜咲く「キットカット」(大学オリジナル)を配布しました。



自信を持って頑張る

現場で求められる人間力の育成 当たり前のことを当たり前にする

本学は、高い専門性と人間力を磨く環境や機会を提供しています。ここでは、学生に講義などを行っている教員の紹介をいたします。

リハビリテーション学科 理学療法学専攻 森田悠介准教授

私は本学の前身、城西医療技術専門学校出身で、2012年に着任しました。それ以前は臨床現場にいて、実習生の指導もしていました。本学の学生を担当することもあって、実際の医療現場の目線で他大学の学生との違いを肌で感じてきました。

実習では知識や技術などが問われる、と思いがちですが、最前線の現場では当たり前のことを当たり前にできることがまず求められます。元気に挨拶する、時間を守る、話を素直に聞く、反省して改善するといった人としての基本を重視します。

本学は人間性や人間力の育成にも力を入れています。その学びが実習先では大きな差となり、学生の質として高く評価されています。

合格への道 4年かけて信頼築く

近年、担任した学生の国家試験合格率は100%で、教員として大事にしていることがあります。それは、入学から4年という時間をかけて、しっかりと学生との信頼を築くことです。

最終学年時、国家試験が近づくと学生の緊張感が高まり、空気が張り詰める瞬間があります。しかし、苦しい時期でも、信頼を築いている教員の助言や指導があれば、学生が苦手分野に自ら気づいて学び直すことがあり、合格への道につながります。

高い合格率は、学生が努力した結果ですが、教員としてやり残したことはないか、常に考えています。いつでも相談できるように、時間を惜しまず学生のそばにいます。



森田悠介准教授

近隣地域で健康講座 口コミで広がりDVDも作成

健康を維持するために、人はどんな行動をするのでしょうか。運動している人、やる気はある人、その気もない人など様々です。森田悠介准教授は、こうした行動特性が意欲や他者とのかかわりの頻度などにどう影響するのか、関心を持って研究しています。

近隣地域と連携して公民館や保健センターなどで、健康講座も開いています。例えば、筋力の向上や維持、転倒予防など中高年に関心が高いテーマを選び、トレーニングやストレッチの方法を紹介します。

「講座で学んだ内容を、いかに継続していただくかがポイントです。自宅で手軽にできる、効果をその場で実感できるなど、研究や臨床経験を生かして毎回工夫しています」と、森田悠介准教授は話します。

口コミで評判が広がり、受講者が増えています。越生町ではDVDも作成しました。



講座は座学と実技の2部構成



効果が実感できる体操を紹介

5月 解剖学統一テスト表彰

毎年3月に「解剖学統一テスト」を実施しています。受験対象は1年生全員と2年生以上の希望者で、解剖学分野の基本知識の定着を確認することと学習意欲の向上が目的です。各学科・専攻の成績優秀者には賞状を授与し、東京ディズニーリゾートで行う特別研修へ招待します。



学長から賞状が授与されました

6月 大樹祭

6月29、30日に第17回大樹祭を開催しました。来場者数は、過去最多となりました。

開会式には音楽サークル『Vivace』がコンサートを行い華を添えました。学科・専攻紹介コーナーでは本学の学びの魅力を発信し、学生サークルや教職員による模擬店も大盛況でした。また、第2回NIMS歌うまバトル、第1回ダンスバトルが開催された体育館は熱気に包まれました。



模擬店も大盛況でした

7月 地域・社会活動で学生を表彰

本学では400人以上の学生がボランティアなどの地域・社会活動に取り組んでおり、優れた活動実績を上げた学生を表彰しました。表彰式で挨拶に立った学長は「自信と誇りを持ち、胸を張ってこれからの大学生活を送ってほしい」と話し、背中を押しました。



学生17人を表彰しました

7月 ケア・トランポリン&電動車いす体験講座

本学が幹事校を務める埼玉東上地域大学教育プラットフォーム(TJUP)主催のケア・トランポリンと電動車いすの体験講座が本学で開かれ、会員校の学生と近隣市町の小学生が参加しました。ケア・トランポリンはリハビリ器具として使用されるもので、参加者の多くが体験前後で立ち幅跳びや垂直飛びの記録が伸びました。



楽しみながら福祉の世界を体験しました

9月 TDRアット・ザ・テーブル研修

解剖学統一テストの成績優秀者と、授業改善に取り組む学生FDスタッフを対象に、アット・ザ・テーブル研修をディズニーアンバサダーホテルで行いました。研修ではディズニーらしい歌や映像の演出でマナーを学び、フランス料理のフルコースを楽しみながら、学んだことを実践しました。体験を通して、豊かな人間性やコミュニケーション能力を磨きました。



マナーを楽しく身につけました

11月 スポーツ・eスポーツ大会2024

スポーツ大会は13日にバレーボールを、eスポーツ大会は14日に「大乱闘スマッシュブラザーズ」の対戦を行いました。両大会とも白熱した試合が展開され、バレーボールは逆転勝利したバレーボールサークル「スザクチーム」が優勝。eスポーツ大会は理学療法学専攻の3年生チーム「歌声はδ波」が勝利しました。3年連続の表彰入りです。



白熱した試合が繰り広げられました

男子バスケットボール部 創部初年 医療系学生が本気で遊ぶ

快進撃 関東大学リーグ(5部)最終結果10勝3敗

第100回関東大学バスケットボールリーグ戦の全日程が終了しました。創部初年の挑戦は、10勝3敗という快進撃。「医療系大学であっても、限られた時間を全力で活動すれば十分に戦える」ことを証明するシーズンでした。学生連盟に加入する部活動が誕生したのは、本学としては初めて。4部リーグ昇格は来シーズンの楽しみに残し、「本気で遊ぶ」チームの活躍に期待しています。



新たな歴史をつくりました

Sports Medical Care Club 理学療法学専攻学生主体の トレーナークラブ

競技大会でコンディショニングサポート

理学療法学専攻の学生を中心にしたスポーツトレーナークラブです。スポーツ大会の会場にコンディショニングブースを設営して、テーピングやストレッチ、アイシングなどで選手や審判の皆さんをサポートします。現役アスリートの身体に触れて実践的に学ぶ機会は、技術力やコミュニケーション力を高めます。埼玉県陸上競技協会と連携して活動しており、関係者から好評をいただいています。



学外からも高く評価されています

自然研究サークル 環境調査隊 楽しく真面目に動植物を愛でよう

大樹祭伝統の「アリクイズ」小学生に大人気

「時に楽しく時に真面目に動植物を愛でよう」をモットーに活動しています。生き物についての展示や理科教育講座を通して大樹祭で紹介したり、野外活動を行ったりするほか、近隣地域で開催される子ども大学にも協力しています。サークル伝統の「アリクイズ」は大樹祭の定番コンテンツで、実は小学生に大人気です。



子ども大学でのアリ探しの様子

音楽サークル Vivace 訪問演奏などへ向けて 練習しています

オープンキャンパスのウェルカム演奏で人気

Vivace(ヴィヴァーチェ)はイタリア語で「元気のよい」「活発な」といった意味で、音楽用語では速度記号の一つです。ピアノ、木管・金管楽器、弦楽器のメンバーで、オープンキャンパスに参加する高校生らをウェルカム演奏で歓迎しています。また、大樹祭ではオープニングを飾りました。



大樹祭でのコンサート